

令和 7 年 5 月 16 日  
管 理 課 業 務 担 当

### 第 35 回 芝浦食肉衛生検査所調査研究発表会を開催しました

3 月 7 日（金曜日）、芝浦食肉衛生検査所は、「第 35 回芝浦食肉衛生検査所調査研究発表会」を開催しました。当所は、食肉の安全の確保を図るため、日々の検査業務から得られる知見を基に、牛や豚の疾病診断や食肉検査方法に関する様々な調査研究を行っており、毎年度末にその成果を発表しています。今年度も集合形式及び Web 配信の併用開催とし、都関係機関や食肉市場内関係団体から計 44 名（うち Web 参加 26 名）の参加がありました。

今年度の発表は、「豚の腎炎カラーアトラス<sup>※</sup>の作成について」、「牛の顆粒膜細胞腫と中皮腫の重複腫瘍の 1 例」、「豚の小腸炎及び大腸炎の診断並びに廃棄基準の平準化に向けた取組」、「検査用ナイフの研磨状況による検査業務の効率化等に関する検討」、「精密検査業務における DX 推進について」の 5 題の口頭発表と「三陰三陽論から考える豚丹毒の 4 つの病型（第二報）」及び「*Escherichia albertii* の豚盲腸便からの分離方法の検討」の 2 題の誌上発表を行いました。

発表後、健康安全研究センターの助言者の先生方より、「腎臓の肉眼所見を BUN（血中尿素窒素）値という客観的な数値で比較しており適切であった。」、「検査刀を観察するために色々工夫されていたのが印象的で興味深かった。」等の励みとなる講評や「腸炎アトラス作成時の苦労話も別途記録しておく、今後の引継ぎに役立つのではないか。」等の具体的な助言をいただきました。

当所は、今後も食肉の衛生検査を確実に実施するとともに、調査研究の成果を事業者や消費者に情報発信し、公衆衛生の向上に一層寄与していきます。

※カラーアトラス：内臓等の病変について、臓器や組織の写真に所見や解説を書き込んだもの。当所ではデジタル化したものを作成し、職員の研修等に活用している。